



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年11月12日

上場会社名 オイシックス・ラ・大地株式会社 上場取引所 東
 コード番号 3182 URL http://www.oisixradaichi.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高島 宏平
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 山中 初 TEL 03(6867)1149
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		EBITDA(※1)		親会社株主に帰属する 四半期純利益(※3)	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期(※2)	47,566	46.1	3,976	341.5	4,678	246.8	2,452	528.2
2020年3月期第2四半期(※3)	32,552	2.6	900	△19.3	1,348	△10.9	390	△56.3

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 2,379百万円 (669.4%) 2020年3月期第2四半期 309百万円 (△65.5%)

(※1) EBITDAは、営業利益+減価償却費+のれん償却額としています。

(※2) 当第2四半期連結累計期間の営業利益は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う宅配需要の急増により売上高が増加した一方で、販促費用等が抑えられたことにより、特殊に増加しております。販促費用の抑制は、第1四半期連結会計期間に出荷キャパシティが逼迫し、一時的に新規顧客の獲得を休止したこと等によるものです。

(※3) 前第2四半期連結累計期間には、前第3四半期連結会計期間より経営成績の連結を行っているThree Limes, Inc. (通称: The Purple Carrot) の売上高及び損益は含まれておりません。

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	65.00	64.84
2020年3月期第2四半期	11.53	11.44

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	36,099	21,480	58.2
2020年3月期	26,087	14,195	53.7

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2021年3月期	-	0.00	-	-	-
2021年3月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		EBITDA		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	90,000	26.7	5,000	102.7	6,400	78.0	2,500	216.4	66.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期2Q	37,997,516株	2020年3月期	34,324,116株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	3,911株	2020年3月期	3,780株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期2Q	37,734,575株	2020年3月期2Q	33,871,591株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響が長期化しており、社会・経済活動が停滞し、景気は急速な悪化が続いております。9月以降、政府の消費喚起施策などの効果により、個人消費の一部に持ち直しの兆候は見られるものの、依然として感染症拡大のリスクは継続しており、また経済活動の縮小に起因する個人所得の減少などの影響により、個人消費は引き続き低調に推移することが予想されます。

一方、外出自粛意識の高まりにより、オンライン経由の購買行動の裾野が拡大しており、食品宅配市場についても、EC化率の上昇により消費者ニーズが底上げされた状態が続いております。

このような環境の中、当社グループにおいては、食を支えるインフラ企業として、食材宅配サービスの需要増加に対し、安定的なサービス提供を最優先の経営課題として捉え、十分な出荷キャパシティや商品サプライの確保に取り組みました。また、お客様の家庭での食の在り方が大きく変化する中で、「健康・免疫意識の高まり」、「家庭での食事頻度の増加」など新しいお客さまニーズに沿った商品・サービスを提案するなど、新型コロナウイルスによる変化対応を優先的に実施してまいりました。

加えて、当第2四半期連結会計期間からは、経営戦略の柱である「国内宅配事業の成長・収益力強化」に向けた取組みを再開し、顧客基盤の拡大や商品の付加価値向上等のブランドごとの事業フェーズに即した施策を実行しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は47,566百万円（前年同期比46.1%増）、営業利益は3,976百万円（前年同期比341.5%増）、EBITDAは4,678百万円（前年同期比246.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,452百万円（前年同期比528.2%増）となりました。

①宅配事業（O i s i x）

インターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業（O i s i x）においては、第1四半期連結会計期間に発生した物流センターの出荷キャパシティ逼迫の課題がほぼ解消し、第2四半期連結会計期間の途中より、制限のない新規会員獲得を再開した結果、会員数は、前連結会計年度末（2020年3月末）の239,837人から、当第2四半期連結会計期間末（2020年9月末）には274,929人へと増加しております。また、在宅勤務の拡大などによる家庭内での食事頻度の増加や、夏季の旅行や帰省の自粛などの変化に対して、お客さまニーズに即した多数の販売施策を実施した結果、購買頻度・単価ともに上昇傾向が継続し、売上増に寄与しております。また、上記の第1四半期連結会計期間に発生したキャパシティ逼迫による新規会員獲得の休止により、新規販促費用が大幅に未消化となり、セグメント利益は特殊に増加しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	23,047百万円（前年同期比 39.5%増）
セグメント利益	4,335百万円（前年同期比132.0%増）

②宅配事業（大地を守る会）

カタログやインターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業（大地を守る会）においては、“ちゃんとした食生活”のコンセプトのもと、当事業年度より会員再拡大のフェーズへと移行しております。足元では需要の高まりは落ち着きつつあるものの、引き続き新規会員獲得が順調に進捗し、会員数は、前連結会計年度末（2020年3月末）の37,127人から、当第2四半期連結会計期間末（2020年9月末）には44,878人へと大きく増加しております。

また、第1四半期連結会計期間に引き続き、シニア層の健康意識の高まりに対して手軽に野菜を摂取できる商品・サービスを展開したことに加え、夏季の旅行や帰省の自粛などの変化に対してお客さまニーズに即した販売施策を実施した結果、購買頻度・単価ともに上昇傾向が継続し、売上・セグメント利益ともに大きく増加いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	7,094百万円（前年同期比38.1%増）
セグメント利益	1,193百万円（前年同期比68.0%増）

③宅配事業（らでいっしゅぼーや）

カタログやインターネットを通じて主に食品・食材の直販を行う宅配事業（らでいっしゅぼーや）においては、当事業年度も引き続き、定期宅配サービスのオペレーション改善施策を優先的に実施しております。一方で、第1四半期連結会計期間を中心に新型コロナウイルスによる宅配需要の高まりにより新規会員獲得が増加し、会員数は、前会計年度末（2020年3月末）の56,935人から、当第2四半期連結会計期間末（2020年9月末）には61,822人へと大きく増加しております。

また、第1四半期連結会計期間に引き続き、家庭での料理頻度が増加したニーズに対して料理が楽しくなる商

品・サービスを展開したことに加え、夏季の旅行や帰省の自粛などの変化に対してお客さまニーズに即した販売施策を実施した結果、購買頻度・単価ともに上昇傾向が継続し、売上・セグメント利益ともに大きく増加いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	9,083百万円（前年同期比21.8%増）
セグメント利益	1,626百万円（前年同期比27.8%増）

④その他事業

当セグメントは、ソリューション事業、店舗事業、海外事業、卸事業等からなるその他事業であります。また、前第3四半期連結会計期間より米国Three Limes, Inc.（通称：The Purple Carrot）の業績を、その他事業に含めております。

新型コロナウイルス感染症の影響により、引き続き保育園卸事業などのリアル事業において減収の影響があった一方、宅配需要の増加により、他社EC事業のコンサルティング等のソリューション事業や海外事業が順調に推移したこと、また、The Purple Carrot連結分が上積みされた影響により、全体では売上高・セグメント利益ともに大幅に増加いたしました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

売上高	8,522百万円（前年同期比141.5%増）
セグメント利益	915百万円（前年同期比73.3%増）

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比較して10,011百万円増加し、36,099百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比較して9,176百万円増加し、27,426百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加7,505百万円、売掛金の増加763百万円、商品及び製品の増加104百万円、未収入金の増加690百万円によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末と比較して835百万円増加し、8,672百万円となりました。これは主に、有形固定資産の増加812百万円、のれんの減少324百万円、投資その他の資産の増加308百万円によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比較して2,726百万円増加し、14,618百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比較して2,651百万円増加し、13,695百万円となりました。これは主に、買掛金の増加939百万円、未払金の増加528百万円、ポイント引当金の増加60百万円、未払法人税等の増加711百万円、その他流動負債の増加376百万円によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末と比較して74百万円増加し、923百万円となりました。これは主に、長期借入金の増加94百万円、繰延税金負債の減少15百万円によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して7,285百万円増加し、21,480百万円となりました。これは主に資本金の増加2,301百万円、資本剰余金の増加2,301百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益2,452百万円によるものであります。資本金及び資本剰余金の増加は、第1四半期連結会計期間に実施した公募増資及びオーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資等によるものです。

②キャッシュフローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、15,158百万円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、4,477百万円となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益3,681百万円、減価償却費404百万円、のれん償却額297百万円、売上債権の増加額763百万円、未収入金の増加額690百万円、未払金の増加額529百万円、仕入債務の増加額945百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、1,943百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出923百万円、無形固定資産の取得による支出361百万円、投資有価証券の取得による支出518百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により得られた資金は、4,961百万円となりました。これは主に、公募増資及びオーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資並びに新株予約権の権利行使に伴う株式の発行による収入4,586百万円、非支配株主からの払込みによる収入300百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年10月22日付「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、業績予想は当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,676	15,182
売掛金	6,824	7,587
商品及び製品	1,330	1,434
仕掛品	15	44
原材料及び貯蔵品	265	301
未収入金	1,989	2,679
その他	379	388
貸倒引当金	△231	△193
流動資産合計	18,250	27,426
固定資産		
有形固定資産	1,432	2,245
無形固定資産		
のれん	2,375	2,050
その他	1,859	1,898
無形固定資産合計	4,234	3,948
投資その他の資産	2,170	2,479
固定資産合計	7,837	8,672
資産合計	26,087	36,099
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,975	5,915
1年内返済予定の長期借入金	9	7
未払金	4,277	4,805
未払法人税等	651	1,363
賞与引当金	—	35
ポイント引当金	184	245
その他	943	1,320
流動負債合計	11,043	13,695
固定負債		
長期借入金	43	138
リース債務	35	32
役員退職慰労引当金	5	6
資産除去債務	322	323
繰延税金負債	138	123
その他	302	298
固定負債合計	848	923
負債合計	11,891	14,618
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,691	3,993
資本剰余金	5,705	8,007
利益剰余金	6,687	9,140
自己株式	△2	△3
株主資本合計	14,081	21,137
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△21	△42
為替換算調整勘定	△39	△80
その他の包括利益累計額合計	△60	△123
非支配株主持分	174	466
純資産合計	14,195	21,480
負債純資産合計	26,087	36,099

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	32,552	47,566
売上原価	17,195	23,587
売上総利益	15,357	23,979
販売費及び一般管理費	14,456	20,003
営業利益	900	3,976
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	0
受取補償金	6	7
資源リサイクル収入	3	3
償却債権取立益	3	7
その他	18	14
営業外収益合計	31	32
営業外費用		
支払利息	0	9
株式交付費	0	17
為替差損	8	12
持分法による投資損失	172	282
その他	5	5
営業外費用合計	188	327
経常利益	743	3,681
税金等調整前四半期純利益	743	3,681
法人税、住民税及び事業税	141	1,238
法人税等調整額	216	1
法人税等合計	357	1,239
四半期純利益	385	2,441
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4	△10
親会社株主に帰属する四半期純利益	390	2,452

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	385	2,441
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	0
為替換算調整勘定	△68	△41
持分法適用会社に対する持分相当額	△6	△21
その他の包括利益合計	△76	△62
四半期包括利益	309	2,379
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	313	2,390
非支配株主に係る四半期包括利益	△4	△10

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	743	3,681
減価償却費	242	404
のれん償却額	204	297
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	8	△38
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1	35
受取利息及び受取配当金	△0	△0
支払利息	0	9
為替差損益 (△は益)	0	—
持分法による投資損益 (△は益)	172	282
売上債権の増減額 (△は増加)	△191	△763
未収入金の増減額 (△は増加)	△111	△690
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△197	△170
仕入債務の増減額 (△は減少)	45	945
未払金の増減額 (△は減少)	△646	529
未払費用の増減額 (△は減少)	△66	101
その他	△105	421
小計	99	5,046
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△0	△9
法人税等の支払額	△175	△559
営業活動によるキャッシュ・フロー	△76	4,477
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△196	△923
無形固定資産の取得による支出	△333	△361
投資有価証券の取得による支出	△10	△518
関係会社株式の取得による支出	△99	△0
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△364	—
敷金及び保証金の差入による支出	△126	△138
敷金及び保証金の回収による収入	107	0
その他	△1	△2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,025	△1,943
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	95
長期借入金の返済による支出	△676	△1
短期借入金の返済による支出	△1	—
株式の発行による収入	804	4,586
非支配株主からの払込みによる収入	—	300
自己株式の取得による支出	—	△0
リース債務の返済による支出	△10	△17
財務活動によるキャッシュ・フロー	116	4,961
現金及び現金同等物に係る換算差額	△19	7
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,004	7,503
現金及び現金同等物の期首残高	8,093	7,654
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,088	15,158

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

1. 前第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

当社は、2019年7月16日付で株式会社農林漁業成長産業化支援機構から、2019年7月17日付でヤマトホールディングス株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第2四半期連結累計期間において資本金が400百万円、資本準備金が399百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,686百万円、資本準備金が5,567百万円となっております。

2. 当第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

当社は、2020年4月8日を払込期日とする公募による新株式の発行により、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ1,953百万円増加しております。

また、2020年5月1日を払込期日とするオーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当による新株式の発行により、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ341百万円増加しております。

これらの結果等により、当第2四半期連結会計期間末において資本金が3,993百万円、資本剰余金が8,007百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宅配事業 (Oisix)	宅配事業 (大地を守る 会)	宅配事業(ら でいっしゅ ぼーや)	計			
売上高							
外部顧客への売上高	16,524	5,137	7,459	29,121	3,430	-	32,552
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	-	-	98	△98	-
計	16,524	5,137	7,459	29,121	3,529	△98	32,552
セグメント利益	1,868	710	1,273	3,851	528	△3,479	900

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソリューション事業・店舗事業・海外事業・卸事業等を含んでおります。

2. 「調整額」のセグメント利益における主な内容は、固定人件費及び各事業セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	宅配事業 (Oisix)	宅配事業 (大地を守る 会)	宅配事業(ら でいっしゅ ぼーや)	計			
売上高							
外部顧客への売上高	23,047	7,094	9,083	39,225	8,340	-	47,566
セグメント間の内部売 上高又は振替高	-	-	-	-	181	△181	-
計	23,047	7,094	9,083	39,225	8,522	△181	47,566
セグメント利益	4,335	1,193	1,626	7,154	915	△4,094	3,976

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ソリューション事業・店舗事業・海外事業・卸事業等を含んでおります。

2. 「調整額」のセグメント利益における主な内容は、固定人件費及び各事業セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。